

Book Review

夢じゃない! 無理じゃない! あなたもスーパー矯正ドクター 垂直的思考による矯正治療のすすめ

菊地武芳 著



Reviewer

鈴木 尚 Hisashi Suzuki
(東京都・ナオ歯科クリニック)

A4 判変, 168 頁
定価 (本体 13,000 円+税)
医歯薬出版刊



夢じゃない, 無理じゃない, スーパードクター…とインパクトのあるネーミングに興味津々で扉を開けた。症例写真が多い。きれいなイラストが目優しい。これは読みやすそうだ。

もともと矯正には興味があるので精読した。そして, 心底, 臨床に携わるすべての歯科医師に読んでほしいと思う良書だと思った。

その理由はいくつもあるが, 第一の核心はなんといっても MTM から出発して, より専門性の高い全顎矯正を手掛けるようになるまで, GP である著者がどのように学んだのか? という見事なまでの足跡である。日常の臨床で手掛けた症例の治療法や結果に疑問をもちながら, その回を解くために次々と展開される息の長い臨床への挑戦は, 下手なドキュメンタリー小説よりもよほど興味を引く内容であった。

読者は, 初心者, ベテランを問わずとなく, 知らず知らずのうちに MTM から全顎矯正に至るまで, その手法を獲得するべく導かれていることに気づくはずである。決して特別ではなく, 自然体のなかで著者が語る学びの流れは, 多彩な症例をベースに語るからこそ, 無理なく読者の胸底に落ちること

になるのである。

難解に書かれた矯正の教本は数多くあるが, 本書には少しもそのようなとりつきにくさは感じない。その原点は今でも著者が堂々と自認する「私は GP から出発した」という揺るぎのない自信なのだと感じる。GP であるがゆえにわれわれ GP の立場にたった気遣いが随所にあり, その一つが, 理解のしやすさという表現方法に表れているのだと納得する。

本書の第二の核心は著者が師事する佐藤貞雄教授の提唱する「垂直的思考による矯正治療」という概念である。咬合高径と咬合平面を重視するこの発想は人類の進化の過程に着想したものだが, 「水平的思考」といわれる, 従来の矯正治療とは全く異なる発想である。

著者が「どうして抜歯矯正なのか?」という矯正治療の方法論に抱いた素朴な疑問。その回答が「垂直的思考による矯正治療」への道程だったのだろう。その理論には正直驚いたが, これは革新性のある矯正治療だ, と秘かに思ったりもした。著者の解説が行き届いているからとも思うが, 従来のセファロ分析と併行して用いられる「デンチャーフレームアナライシス」という

方法論はとてもわかりやすいと思う。

この診断的技法はいくつかの基本平面を理解することが必要だが, 大学時代に教えられたあのセファロ分析の難解さはない。在学中にこんな学び方ができれば, もっと早くに矯正を好きになっていたかもしれないと少々残念な気もする。

第三の核心は, 従来型の矯正治療にはなかった「咬合学」からの徹底した検討である。下顎位を上顎に適応させるという治療の概念からすれば, ごく当然のことと受け止められる。しかし, かつての矯正治療がこれほど咬合への関与を真剣に考えていただろうか? 歯科医療の目標が「良い噛み合わせ」の達成であるはずなのに, いつまでも綺麗な歯並びだけの「矯正治療」に止まるのは医療としてもおかしいことだろう。

「歯科医師は一生勉強」というフレーズはよく聞かすが, 冒頭で述べられているとおり, 永年スタディグループに属してさまざまな臨床研究に勤んできた著者の歯科医療はとても奥行きが広いものだ。GP であるからこそ行き着けたそのエキスは, 読者諸氏にとって最強の栄養剤になることは間違いない。